

## 西国第十四番 長等山

御本尊／如意輪観世音菩薩 開基／大友与多王

## 天台寺門宗（総本山） 三井寺

## 日本の「奇跡の人」

長吏 福家俊彦

当寺では、境内整備などの仕事を通じて障害者の方々の就労支援に取り組んでいます。もちろん当寺にできることは限られていますが、黙々と仕事に励まれているときにも、こちらから声をかけるといつも明るいことが返ってきて、すがすがしい気持ちを運んでくれます。

力を失い話すことさえできなくなつたヘレン・ケラー。彼女はサリバン先生との運命的な出会いから人生に目覚め、障害のある人たちのために生涯を捧げます。世界中の人びとを感動させた映画「奇跡の人」に描かれた二人の姿を覚えておられる方も多いかと思えます。その後、彼女は世界各地を歴訪し、日本にも三度立ち

寄っています。初来日は一九三七年。そのとき彼女は、「子どものころから埴保先生をお手本にしなさい」と母に励まされたと話し、埴保己一の史料館（温故学会）を訪問しています。

埴保己一（一七四六―一八二一年）は、江戸時代の国学者。六歳のときに失明し、十五歳で江戸に出て勉学に励みました。三十歳を過ぎて日本の歴史や文学に関する資料集の出版を決意し、四十年に及ぶ歳月をかけて、わが国屈指の一大叢書『群書類従』六六六冊を出版するという画期的な業績を残したのです。この叢書のすごいところは、現在でもなお出版され続け、多くの人々に活用されていることです。なかには室町時代の三井寺のお坊さんの旅日記も収録されていて度々お世話になっています。

それにしても江戸時代にあって視覚障害者であることの困難と制約は、いかばかりだったでしょう。それでも偉大な仕事をなしたのは、彼の温かい人柄と不屈の努力に感銘を受けた人たちがいたからです。彼もまたヘレン・ケラーと同じ「奇跡の人」、まさに日本の「この人をみよ」だったので

